

世界旅打ち気分

●第84回・WA州のプロヴィンシャル2場

須田鷹雄



写真1) バンバリー競馬場でレースを楽しむ人々



写真2) ピンジャラ競馬場でたくさん用意されたマーキー



写真3) ピンジャラ競馬場のパドック風景

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

今回は先月に続いて、オーストラリア・西オーストラリア州の競馬場を御紹介したい。2場とも向こうの分類でいうとプロヴィンシャル場(重要なほうから2つめのカテゴリ)といことになるのだと思うが、年に1〜2回はメトロ開催(その州で最も重要度の高い開催)が割り当てられることもあるようだ。同州においてはそれなりに重要な競馬場、ということになる。

まずはバンバリー競馬場。州都パースから南に車で2時間ほどのところにある。筆者は日帰りでパースからバンバリー競馬場のみを往復したが(帰りにマンデユラというドッグレース場にも寄った)、バンバリーはそれなりに大きい街だし、美しいビーチもある。オーストラリア西岸の街なので海に沈む夕陽を見ることもできそうだ。野生のイルカと触れ合えるドルフィンデイスカバリーセンターという施設もあるとのことである。余裕があったら泊ってみたい街だし、往復4時間の運転はしんどいのでそのほうが安全でもある。

競馬場の施設は正直古いし、スタンドの規模も小さい。しかし競

馬場のイメージカラー(たぶん)である青を使って統一感のあるデザインになっており、直感的なイメージは悪くない。

スタンドは「スタンド」というほど立派なものではなく、一般ファンが観戦するところは「単なる段々」である。その上、2階部分に相当するところにガラス張りの観戦ルームと、オープンなスペースにテールが置かれたゾーンがある。この2階部分はメンバー専用で、一見だと入れない。「段々」の上のほうもメンバー専用だ。小さい競馬場のわりにメンバーと一般の区分けがしっかりしている印象である。メインスタンドのほかにローガンジョシュ(99年メルボルンカップ優勝馬)の名を冠したく小さなスタンドがありガラス張りになっているのだが、これもメンバー専用だ。

ただ、一般ファンも不便はない。コース側には誰でも使えるテント+ベンチがあり、ヨギボー的なクッションもいくつか置かれている。11月(向こうの春から4月(秋)あたり)の暖かい時期なら、こういうスペースで楽しむほうがむしろ楽しいだろう。

バーは2箇所にある。ひとつはマウンティングヤードの近くで、オープンな空間。ここに滞留しているファンはかなり多い。TAB(WA州ではTAB Touchというブランド)の機械もあってそこで馬券を買うこともできる。

もう1箇所はスタンド裏手の1階部分で、ここは空調が効いているのだがなぜかそこまで人がいない。ここにも馬券の機械はある。最近VIC州などではTABが競馬場に機械さえ設置しない(マホ木で買う人が増え、採算性が悪くなったため)こともあるが、WA州はここに限らずTABが機械・友人窓口とも健在。逆にブックメーカーはいても1〜2台、居ないところもあった。州によって法律なり事情なりがだいぶ違うようだ。

空調付きバーの隣には、レストランと言ったらおかげさだが、売店兼食堂がある。一応レジエンスカフェという大仰な名前が付いている。バーガー類が100〜1700円くらい、トースタイ(ホットサンド)みたいなのが900円前後、筆者が食べた「ブルドポークとコールスローをパンに挟んだやつ」ポテト付き」が1700円くらいだ

つたが、味はちゃんとしていたし現地の物価を考えると十分に許せる範囲であった。

もうひとつ、ピンジャラ競馬場を御紹介しよう。こちらもパースより南にあるが距離は半分以下。ただ、フル規格の高速を使うと遠回りになることもあり、パースからの時間は1時間20分ほどかかる。競馬場近くの道は「高速っぽいのに携帯の電波が怪しい」という感じなので、あらかじめルートはスマホにダウンロードしておいたほうがよい。

行ってみて分かったのだが、筆者が訪問した今年の2月14日は先述したメトロ開催。セリ会社のマジックミリオンズが大きいレース、同社のセリで購買された馬を対象にした2歳リステッド、3歳リステッドを行う日だった。

1レースの1時間以上前に着いてしまったのにやけに人がいるな、なんか着飾ったおばちゃんや車から降りてくるな、と思ったらそういう事情だったのである。オーストラリアはどここの競馬場にもカップデーという年に1回盛り上がる開催があるのだが、それに近いユアンスだと言えよう。オーストラリアの競

馬場ではギフトショップなどまず無いが(フレミントンと、改修中のムーニャアレーくらいしか思いつかない)、この日は入場門近くにレースブック売り場兼ギフトショップが設けられていた。筆者も帽子とスタビーホルダー、ボールペンを購入したので、これはグリーンフェアムのパーティでプレゼントになる可能性大である。

中に入ってみると、スタンドの規模はバンバリーとはほぼ一緒。古さはこちらのほうが目立つ。ただその古さは良い意味でレトロというか、競馬場本場が盛り上がっている時代をイメージさせる。

お祭り開催なので、場内はスタンドとコースの間はもちろん、スタンド裏手に至るまで、設置できるところはマーキーで埋め尽くされていた。マーキーとはテント+テール+椅子のセットで、お祭り開催のときにはあらかじめそれを有料で予約して仲間うちで楽しむのである(ケータリングなどもセットにしている競馬場もある)。一般マーキーの他に、マジックミリオンズの招待客だけが入れる大型仮設テントも設置されていた。

人の集まる開催なのでTABの窓口・機械だけでなくブックメーカーも多く来場し馬券は買いやすかったのだが、みんなグループで楽しんでいる中、東洋人のぼっち客は居場所がなくて困った(笑)。

ふだんの開催はどんな感じなのか分からないが、とりあえずバーはスタンド1階に2箇所あり、食べ物や飲み物のような建物の食堂がある。ここはなぜか大賑わいの中でも空いていて、空調があり座れるということまでたいへん助かったのだが、買ったバーガーは正直ハズレだった。客の多い開催で作り置きだったのだろうが、「作った瞬間はまず良かったが、作った瞬間はまずまずだったバーガーの冷え冷えバージョン」とでもいう感じ。思わずアジア料理キッチンカーで春巻を買い、食べ物の記憶を上書きして処理した。

それでも天気が良かったこともあり、1日楽しめた。ピンジャラ競馬場だった。パースからは成田空港へ直行便が出ているのだが、現地発は夜。ピンジャラくらいの距離なら、競馬を見たあと空港に向かうのも十分に間に合うので、現地での滞在時間を最後まで無駄なく過ごすことができた。